ヴィラ

バリ島訪問記

田原　妙子

ひょんなことからインドネアのバリ島へ行っていました。ビーチではなく、島の中央辺りの山の中、神の住む森と芸術の街といわれるウブドです。ここは、縁のある人しか行けないといわれる、神様がいっぱいの不思議な街でした。インドネシアは近年、成長するアジアの代名詞のようにいわれる国の一つですが、バリ島は、他の島とは違いヒンズー教徒が多く、いたるところに宗教的なものがあります。また観光優先の政策のためか、特にウブドは近代化からは格段に遅れており、風景や庶民の暮らしぶりは、まるで戦後復興期の日本の農村のようです。ゆったりとしていて、どことなくノスタルジーを感じるという人も多いようです。

私たちは、バリでビジネスをしている日本人のプライベートヴィラに宿泊したので、ローカルな生の話をたっぷり聞かせていただき、体験することができました。このヴィラも、バリの呪術師であるバリアンに選んでもらったそうで、ウブドの森の精霊の気が流れ込むので護られていて、ヨガをする人やヒーラーの人もよく来られるとのことでした。

このオーナーは、新しいヴィラを建設中とのことで、その建設現場を見せていただきましたが、法整備がまだ緩いため、日本では？なことであっても何の問題もなく、実にゆったりとした現場でした。設計図があっても現場で変わるのは当たり前、いいものになればそれでよし、という空気感が、いかにも南の国らしく、工期もアバウトでした。

ウブド市街

裕福な家は、大家族で親戚がまとまって暮らすことが多く、寝室以外共有の場がほとんどで、家の中に寺や祠があります。私が訪れたバリアンの家も、祈祷所と集会場と蔵があり、敷地内でたくさんの親戚の姿を見ることができました。

バリは火山島のため、大きな池もなく水が少なくて昔から水争いが絶えず、そのため、水路を作り田畑を潤していました。その芸術的な棚田と水路の風景は世界遺産になっています。これも日本の原風景に近いものでした。

水が少ないため水力発電も難しく、電気の供給も途切れがちで、よく停電します。ホテルや観光向けの店では自家発電で賄っているため十分明るいのですが、庶民の家はわずかな蛍光灯だけ、それも色が良くありません。道沿いの商店も消えかけたような蛍光灯がぼんやりで、人の顔も見分けられないほど、もちろん街灯などありません。

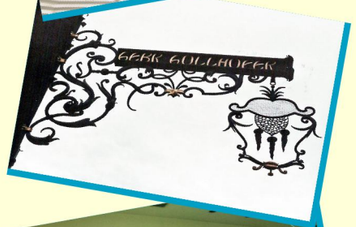
バリアンの家の入口

蒸し暑く暗いので、夜は薄暗い店先や夜市に人が集まり、おしゃべりするのが庶民の娯楽だそうです。宗教的なこともあり女　性は少なく、男性同士仲良く集団になっている姿がほとんどでした。騒がず、ただおしゃべりするだけ。淡々とした表情ばかりなので、見慣れたらのどかな風景でした。

宗教的なのか民族的なのか、普段から男は男らしく、女は女らしく色鮮やかに装うので、観光客も自然に自らの性別を意識するようで、それがまた街に潤いを与えて心地よく感じました。

物価が日本の約10分の1で、収入もそのレベルのため、生活用品もローカルなものが中心になり、海外から良いものが入っても買えないのが実情です。当然、庶民のインテリアへの意識もこれからのようですが、服装の色彩センスといい、いろいろな面で「バリ風」という言葉があるくらい、もともとのセンスの良さがありますから、インテリアの世界に新しいバリ風ができるのも近いのではないかと思いました。

facebookで広げよう交流の輪



昨年の6月、最初はおっかなびっくりで首を突っ込んだ「facebook」、今はかけがえのない遊び道具の一つになりました。これは、人から勧められても、理解しようとしない人には理解できません。やっているうちに面白さが見えてくるのです。

メリットは何、とか、個人情報がどうとかいう人には向かないと思われがちですが、たぶんそんなあなたも、大げさにいうと、病みつきになるのではないでしょうか。

私は「OIS・大阪府インテリア設計士協会」のグループメンバーにも入り、主に“建物・インテリア”などの情報を写真を主体に、気が向くまま、人が見てくれようが見てくれなかろうが「投稿」しています。今までの数多い投稿歴の中からいくつかを紹介しておきます。

私は写真好き、花好きですから、グループの他の皆さんには毎朝「誕生日の花」を、自分のアルバムからピックアップして見ていただいています。好きな写真も自分で見てニヤッとしているだけでは自己満足に過ぎません。人様に見てもらえるからまた撮影しようという気持ちが沸くのです。

ファッションやグルメ、旅情報も有難いものです。是非あなたの得意ジャンルの話題を皆さんにご披露していただき、お友達の輪、交流の輪を広げませんか。分からないことがあればお問い合わせください。facebookのOISの管理人が親切にに答えてくれると思います。

（いちfacebook愛好者・奥田忠彦）

筒井 弘次様

（73歳）

他団体には名誉会員制度というのがありますが、OISには、「かぶだちの会」があります。

これは、現役、リタイアの別を問わず、65歳を迎えた人たちの会で、まだまだ元気な高齢者の集まりですが、この会の提唱者で二代目会長であった筒井さんが、2年6か月に及ぶ闘病生活の末、薬石効なく、6月９日に他界されました。

OISは良い人ばかりの集まりですが、特に筒井さんは、常に明るく、分け隔ての全くない、気さくな人柄で、お酒をこよなく愛され、私も、何回となくお誘いを受け一緒に盃を傾けたものです。

思い出は尽きませんが、飛田・百番での忘年会、一緒に行ったラスベガス旅行は、特に印象に残っております。

どうぞ安らかにお眠りください。心からご冥福をお祈りいたします。

（記・奥田 忠彦）

OIS
大阪府インテリア設計士協会
〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14
TEL. 06-6262-1488　FAX. 06-6262-1553
ＵＲＬ http://jp-interior.or.jp/ois
blog http://oisblog.exblog.jp
E-mail ois@jp-interior.or.jp

HASHIRIGAKI

葉　知　利　書

発行人：河野
編集人：田原（第3事業部長）
スタッフ：石渡・今井・加茂・五代
瀬部・福田・山田
河野（第1事業部長）
事 務 局：岡﨑・奥田

心機一転

一致協力で難局打開！

No.95

代役を仰せつかって・・・

会長・河野　洋二

新会長・河野さん

梅田会長の体調不良により、急きょ代役会長の命を頂きました。自分にこのような大役が回ってこようとは思ってもいませんでした。ポストが重すぎて色々と悩みましたが、歴史ある協会運営の停滞は許されないとの認識によりお引き受けした次第です。幸い、周りには経験豊富な先輩諸氏が大勢いらっしゃいますので安心しております。

建築・インテリア業界の環境は、東京オリンピック2020、東日本大震災の復興、度重なる異常気象による災害復旧等でにわかな活況を呈しています。価格の高騰、技術者の不足と大変な状況ではあります。

とりわけ、若い技術者が育っていないという大きな問題があります。当協会は若い技術者を育てる、また、年齢に関係なく技術者の交流が図れる環境下にあります。これからも色々な技術・情報交流の場を提供し、情報発信を行っていきたいと思いますので、協力のほど、何卒宜しくお願いいたします。

梅田さんが早く体調を整え、一日も早く会長として復帰されることを、心からお祈りしております。

総会 平成26年度 & 交流会

OISの平成26年度総会は4月25日の金曜日、難波のOCAT「市立難波学習センター・第2研修室」で開催された。上の、河野新会長の挨拶にもあるように、梅田会長が体調を崩し、自ら辞任を申し出られたのを受け、梅田会長の意向を踏まえた上で理事会で検討し、残任期間は河野副会長が引き継ぐことを決定した。総会冒頭、岡﨑専務理事がその旨を説明し、出席者全員の承認を得て河野副会長が会長に就任、議長を務め総会議案審議に入った。

議案は、平成25年度事業報告・決算報告承認の件、並びに、平成26年度事業計画案・予算案決定で、逐次上程・審議、質疑応答の後、全議案とも原案どおり可決承認並びに決定した。

その内容は、受験者数減少による財務状況の悪化、見学会等の開催回数並びに参加者数の減少など、暗い報告もあったが、青年部が主催する「Desgner's Bar」「MANA-BOZE」「ASO-BOZE」の順調な開催は高く評価され、中でも、吉矢理事が講師を務めた「テーブルコーディネート講座」、外部から講師を招いた「正しいウオーキン講座」は評判が良く、ヴァージョンアップした内容での継続開催も考慮対象である。

また、OISと会員を直接結ぶ「葉知利書」は予定の年間3回発行を実現し、内容も充実、青年部活動同様、OISの要といえる存在である。

望むことは多いが、多様な会員に対応できる催事を多彩に行い、また会員も、前向きに参加してこそOISの真価が発揮できるものと思われるので、新年度を機に心機一転、一致協力して難局を打開、静養中の梅田前会長を元気づけたい。

総会終了後は席を移動し交流会が行われ、和気あいあいの時間を過ごし解散した。

※総会資料ご希望の方はお申し出ください。　（記・事務局）

交流会で挨拶する疋田顧問

ちょっと MANA-BOZE

『正しいウオーキング講座』

今回の講座は特別企画で、前回の青年部企画「ちょっとMANA-BOZE」に一般参加をいただいた、ウォーキングアドバイザーの亀田智実先生による講座でした。

標題は「正しいウオーキング講座」でしたが、基本となるのが正しい姿勢がとても大切だということで、姿勢によって血流も良くなることや、歩くことだけではなく、食べることや話すことにも大きく関わりがあることを教えていただきました。

亀田先生による姿勢チェック

正しくない姿勢だと代謝率も悪くなり、どうしても太りやすい体質になるそうです。心の持ち方も、やる気や元気、根気などのプラス思考にもつながっていくということで、正しい姿勢の重要性を実感することができました。

亀田先生(右)と青年部・広畑部長

最後には個々に姿勢のチェックをしていただきましたが、正しい姿勢を保つだけでも、数分でしんどくなってしまいました。いかに日頃の姿勢が悪いかということになってしまいますが･･･(苦笑)。

私も以前はウォーキングを試みていました。でもなかなか継続ができず、さぼりっぱなしでしたが、これを機会に教えていただいたことを活かして、復活させようと思っています。

今回は多くの方にご参加いただき、講座後の懇親会には先生も交え、皆さんと交流を深めることができ、とても盛り上がり、有意義な講座でした♪　（記・広畑 直子）

いっぱい ASO-BOZE

『ようこそ、星のブランコへ』

私が住む大阪の南の端、大阪狭山市から枚方の私市は北の端にあたり、今まで行く機会がなかったため、今回の参加となったわけですが、本当の狙いは、ウォーキングアドバイザー・亀田先生に歩き方を伝授していただけると考えたわけで、期待をもって勇んで家を出たのであります。

少し余裕をもって出たせいか、集合時間の30分も前に着いて、どうしようかなと思ったとき、事務局の岡﨑さんに出会いました。そこで、今日は先生は不参加と聞き、力が抜けて帰ろうかと思ったぐらいですが、気を取り戻して気合いを入れて準備運動などしながら、みんなの来るのを待っていました。生来、待つのが嫌いな性分ですから30分はとても長く感じたものです。

ようやくみんなが集合し、星のブランコに向けてスタートです。途中、川沿いの道は、緩かなアップダウンがあるぐらいで、ゆっくり歩いても1時間足らずのコース、初心者向きかなと思いつつ歩を進める中、見ごろは過ぎているものゝ、まだ、ところどころに残っている桜の花が心を和ませてくれました。

辿り着いた「星のブランコ」は日本最大級の吊り橋、やはり絶景です。ここにきて、帰ってしまわなくてよかったと、本心思いました。

地上50メートルからの眺め、新緑の山々がこれまた素晴らしいものです。こゝはデートスポットですね。恋人同士が青春を謳歌するのもよし、愛を育んで恋の架け橋となるのもよしといういゝところです。もう一度青春時代に戻れるならやり直してもいいかな、と密かに思った次第です。

若い会員の皆さん、ぜひお相手の方と「星のブランコ」を二人で如何ですか。

（記・宮本 誠三）

★「星のブランコ」･･･延長280ｍ、地上高50ｍで、木床板人道吊り橋として日本最大

★「ハイキング予告」･･･次回は9月7日(日)に能勢・妙見山へ行く予定です。皆さん、ご参加ください。

SJIT本部総会・土佐の高知で盛大に！

5月17・18の両日、高知市の「ザ　クラウンパレス新阪急高知」で、SJIT本部総会が開催され、我々OISからも疋田SJIT会長をはじめ7名が参加、総勢51名が全国から参集しました。

16時に総会開催が宣言され、議事に先立ち、昨年逝去された役員・会員はじめ、先達の御霊に黙祷を捧げた後、疋田会長が議長に選任され、昨年度の事業および決算報告、今年度の事業計画と予算が上程され、可決承認されました。

18時から懇親会が開催され、全参加者が受付時に引いたくじで決まったテーブルにつきました。乾杯の後、郷土芸能のよさこい踊りが登場し、その若々しい元気いっぱいの演舞で一気に会場を盛り上げてくれました。参加者も舞台に上がって一緒に踊ったり、テーブルにいるものは鳴子を手にして会場一体となってよさこい踊りを楽しみました。

高知といえば、「何はともあれまず酒」という勝手なイメージがありますが、会場にはたくさんの高知の地酒が用意され、待ってましたとばかりに全国の飲んべえが群がり、あれやこれやと飲み比べつつ、地元の人々のいう「おきゃく(要するに飲み会)」の雰囲気を楽しみました。

翌18日も朝から快晴で、8時半にホテルを出発し、先ずは桂浜に向かいました。坂本龍馬像の前で記念撮影の後の自由時間に、私は年甲斐もなく一人波打ち際まで歩き、「五色石」を拾いました。

次に五台山の県立牧野植物園に向かいました。バスガイドさんが「ここまで足を伸ばして下さってほんとにうれしいです！」と言われるぐらい、実は地元の方々のお勧めスポットであるようでした。

日本の植物分類学の父と称えられる牧野富太郎氏の業績を顕彰するために昭和33年に開園した植物園で、起伏豊かな非常に広大な園内を各自自由に歩き回りました。ただぼんやりと歩いているだけでもどんどん気分がやすらいでいくのを感じ、できればもっと散策時間が欲しいと思いました。

また、記念館はJR高知駅舎を手がけた内藤廣氏の設計によるもので、さすがはインテリアの職能団体であるだけに、植物だけでなく、これらの建物にも心奪われる参加者を多く見かけました。

旅の最後は「土佐海」という地元では有名なお店での昼食。高知支部の方々もバスガイドさんもお店の人もみんな口を揃えて「今年はカツオが不漁で…」と言われていましたが、そんな言葉が吹き飛ぶように、ドーンと大皿に盛られたカツオのたたきを、お腹いっぱいいただきました。

来年度のSJIT総会は、北陸新幹線の開業で新たな粧いを見せているであろう金沢です。一緒に行きましょう！（記・瀬部　明）

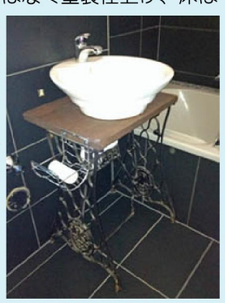
ドイツ人の暮らしとセンス
五代　晋一

趣味の空手の関係でドイツのデュッセルドルフへ行きました。そこではゲストルームを使わせてもらいましたが、なかなか素晴しいなと感じたことを報告したいと思います。

泊まらせてもらった部屋の扉は再利用で、ビックリするような使い方でした。上吊り式で、両引きの扉なのに開き戸のレバーハンドルが付いており、左右は違う扉ですが壁と同色で塗装されています。また、洗面器の台はミシン脚の再利用、キッチンのドアも再利用でしたが、上手に塗装し違和感無く仕上がっていました。

聞くところによると、ほとんど自分たちでリフォームをしてしまうそうで、壁の塗装やタイル張り、造園に至るまで…。技術的に無理な場合のみ職人を呼びますが、材料は自分で買いに行くそうです。また、お金を借りるのも新築よりも改築の方が金利は安いとのことです。

何軒かの住宅を拝見しましたが、内装はモダンなものが多かったように思います。そして壁はクロスではなく塗装仕上げ、床は無垢材フローリングやタイルを使ってあり、リフォームやリペアし易い仕様になっていました。さすがドイツ、モノを大切にする文化とデザイン性が調和しているなと感心させられました。



自分の家を顧みて思いますが、家族が思い思いに買ってきたものが溢れ、調和のとれなくなったインテリア…。今更ですが、自分の体も家の中もシェイプアップを始めてみようかなと、この文を書きながら考えている次第です。

奈良県・今井町
朝日　勝彦

最近、仕事の関係で奈良県の南部地方へ出掛ける機会が増えています。奈良といえば、奈良市内などの奈良県北部をイメージしますが、この南部地方の静かな情緒感も良いものです。

その中で、強く興味を惹かれる街並みを発見しました。「奈良県橿原市今井町」です。その起こりは本願寺僧による寺の建立、布教活動が始祖とされているようです。

ノスタルジックな古い町並みは国の重要文化財に指定され行政からも保存維持の対象となっています。かつては「大和の金は今井に7割」と称される程の繁栄振りで、徳川時代も、町人だけの自治運営が特別に認められ、今井町の外郭全周は外敵防御のため、堀で囲まれていたそうです。

私は建築に携わり約30年に近い月日が過ぎましたが、「温故知新」、古きを知り初めて現代の住空間の便利さ快適さも実感できるものと思います。

当地は観光コースとして、町中をぐるっと廻れるシステムもあり、私は夏場に一度、訪れてみようと考えております。

また、織田信長と対立するも明智光秀の仲介で壊滅の難を免れた経緯や豊臣秀吉を来賓として招待された逸話、徳川家康からの赦免の書状など、歴史ファンの方にも興味深い必見スポットといえるでしょう。